集い1

# 「BYQネットワークの集い2007 を開催しました!

琵琶湖・淀川水系の水環境を改善するためには、

市民や NPO など多様な主体が連携して取り組むことが求められています。

そこで、今年は「水質 | をキーワードに、BYQ (財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構)が取り組んでいる 様々な活動を通じて知り合った人達が楽しく学び、交流できる「BYQ ネットワークの集い2007」を 平成19年1月21日に、OMM ビル(大阪市中央区)で開催しました。

また、午前中は同時開催として、毛馬閘門の仕組みなどを体験し、水上から大阪の町並みを見る 「水上バスでゆく大阪・大川周遊めぐり」を行い、120名以上の方が参加されました。

集いには、日頃 BY スタンプラリーに協賛して頂いている市民団体の方、

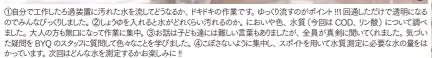
あるいは WAQU<sup>2</sup> (わくわく)調査隊員として活動されている個人の方など 200 名近くの方々が参加され、 水質浄化実験や水質調査の発表会、参加者による意見交換などを行い、

大盛況のうちに終えることができました。

# 身近にできる水質浄化実験と水質調査についての学習会

「集い1」の学習会には、30 名ほどの子どもたちを含む約80名が参加しました。BYQの和田主任研究員から「水 の汚れときれいになる仕組み | の講義を受けた後、ペットボトルを用いたろ過装置の工作にチャレンジしました。 その後、パックテスト\*の正しい使い方を学習し、工作した装置を用いて水質浄化を行いその効果を確認しました。











### 水質調査の現状と地域における水質調査の発表会

「集い2」の発表会では、「水質調査データの見方」と題して、龍谷大学理工学部助教授の岸本直之氏にお 話しいただきました。琵琶湖・淀川流域で日頃活動をされている4団体による水質調査の発表会を開催し、 その後、会場の約120名の参加者も交えて、水質に関する疑問などについて意見交換が行われました。









査している水質項目 (pH や COD、BOD など) とは何か というお話から、湖沼や河 夫人地域と自然、NPO 法人 びわこ豊穣の郷、淀川水系 容について全体発表を行い

「指標生物を使った調査と生物か らのメッセージ」と題して、社団法 人 淡水生物研究所所長 森下郁子





BY スタンプラリー協賛グループなど 23 の市民団体の方 に、会場内に展示したポスターを使って、日頃の活動に





なく、琵琶湖・淀川流域のいろいろな場所で、さ まざまな活動をしている人々がおられることを改

・様々な地域の方と意見交換ができ、

水環境についても貴重な情報が得ら

・水上バスで、普段いけないところへ行 けて勉強になった「百聞は一見にしかず」

#### 同時開催

## 『水上バスでゆく 大阪・大川周遊めぐり』

水上バスに乗って、大阪・大 川を見学し、毛馬閘門を通過 して淀川まで周遊しました。





#### 参加者のご意見(アンケートより)

#### 【学んだことは…】

- ・ろ過の仕組みが具体的・体験的に理 解できたこと
- ・貝など自然は自分の力で、浄化する サイクルが出来ているのに、人間が そのバランスをクズしてしまっている のでは…。
- ・水質が良くなれば、それでよいのか?! 目からウロコでした。 水の大切さ
- いろんな活動が行われていること

#### 【良かったことは…】

- ・水質の変化に感激しました。
- ・実験と疑問点がすぐ聞けたこと。 ・頭で考えるより、実際に作ってよくわ
- かった。 子供がとても喜んで楽しそうであった。
- がとうございました。 いただいたご意見・ご要望は、次回の

【がっかりしたことは…】

時間が長いこと

えにくい

はじまる時間が遅れること

人数が多すぎて、狭かったこと

・ビデオ発表など、後ろにいる人は見

その他たくさんのご意見をいただきあり

集い開催の際に参考にさせていただき ます。(事務局)

∣ 3